

千葉大学 性暴力トラウマ対応 人材養成ワークショップ

「性虐待被害を疑う子どもに出会ったら？

やるべきこと&やってはいけないこと」

開催日

平成25年 8月21日(水)
13:00-17:00

場 所

千葉大学 医学部本館1F
第一講義室

参 加
無 料

事前登録は不要です
(学外の方も参加できます)



講師

高岡 昂太

千葉大学大学院医学研究院
子どものこころの発達研究センター 非常勤講師
ブリティッシュコロンビア大学
カウンセリング心理学研究科 客員助教



【プロフィール】

東京大学大学院教育学研究科修了
臨床心理士、司法面接士、教育学博士
臨床現場では、認知行動療法を中心とした「子どもと養育者に関わる臨床心理学的心理面接」の提供、「アウトリーチ・多機関連携(MDT)・当事者研究」を行っている。これまでに、子どもと養育者に関わる支援者&一般市民向け研修での講師経験も豊富。

主宰

清水 栄司 認知行動生理学・子どものこころの発達研究センター
生水 真紀夫 千葉大学医学部医学研究院生殖医学（産婦人科）

お問合せ先

千葉大学大学院医学研究院附属 子どものこころの発達研究センター
TEL : 043-226-2975 FAX : 043-226-8588 E-mail : chibarccmd@ML.chiba-u.jp

～ワークショップ開催にあたり～

【目的】

一般外来・入院病棟で、アセスメントをしている時や治療中に、“ひょっとして性虐待があるんじゃないか…”と、ちょっとでも頭によぎったことはありませんか？
学校や保育園・幼稚園などの日常生活で、気になる性的問題行動を見つけたとき、どのようにその問題を考えましたか？
そして、もし今後そのような子どもに皆さんが出会ったり、同僚から相談を受けたら、どう行動しますか？
今回のWSでは、なかなか今までの日本では、目を伏せられがちであった性虐待を疑わせる子どもへの対応について、医療従事者は何をして、何をしてはいけないかのポイントを明らかにします。

【到達目標】

- ①目の前の子どもに対して、性虐待を疑った際に、何をすべきか、何をしてはいけないかの知識を獲得する。
- ②どのタイミングで通告するのがベストか？ 児童相談所と警察、どちらに通告すべきなのか？
- ③「疑いの段階で通告するなんて、確証も無いのにしても良いのか？」「子どもに疑いがある。でも、もし私が通告したと、親から責められたら、どうするんだ？」「連携先の機関が昔は動いてくれなくて、嫌な思いをしたから、今回も通告はしたくないなあ…」等、児童相談所への通告・警察への通報を妨げる支援者自身のブロック要因とその解除方法について明らかにします。

【WS講師から皆様へ】

性虐待は、昔からタブー視され、なかなか一部の議論としてしか声をあげられてきませんでした。ここ数年で、日本の医療-福祉-司法でもかなり事態が改善されてきました。その大きな発展を支えるのが、我々支援者全員であり、現場の最前線にいる皆様です。
今回のWSでは、短い時間ですので、ポイントを絞って皆様の疑問にお答えできればと思っています。
また、なるべく質疑応答の時間やディスカッションの時間を多く取りたいと思いますので、「こんな事例はどうなの？」「昔、こんな事例があったのだけど…？」という内容についても是非積極的にご意見を賜り、一緒にディスカッションさせて頂ければ嬉しいです。
よろしくお願い致します。